

2013年(平成25年)

4月6日

土曜日

熊本日日新聞

発行所
熊本日日新聞社
〒860-8506
熊本市中央区世安町172
代表(096)361-3111
© 熊本日日新聞社 2013年

歴史ある市場 再出発

熊本市の熊本地方卸売市場(通称・田崎市場)に青果卸売市場を開設する熊青西九州青果(森下義弘社長)の経営陣が、旧親会社の経営不振で整理回収機構などに移っていた自社株式4万5千株(発行済み株式の90%)を買い戻した。市場開設60年の歴史を持つ企業に突如降り掛かった買収劇から8年。名実ともに地場企業として再スタートを切った。

仲買人と談笑する熊青西九州青果の森下義弘社長(右から2人目)と鳴松猛取締役(右端)＝熊本市



熊青西九州青果(熊本市)

買収劇から8年 自社株買い戻し

2005年3月、西九州青果に青天のへきれきとも言える出来事が襲った。大阪市のネット販売ベンチャー、ピービーネット(後にクレスト・インベストメントに社名変更)が、同社の買収を表明したのだ。株式の約9割を所有していた当時の社長の独断。社員は何も知らされていなかった。当初、異業種の組み合わせは注目を集めた。「新たな青果流通」を打ち出し、ネットを使った直売のほか、独自品種米の生産・販売などにも挑戦。全国から視察も相次いだ。思えば、うな利益は出せなかった。鳴松猛取締役は「親会社は農業を知らなかった」と振り返る。

派手なM&A(企業の場合)と買収)で知られたクレスト社だが、その内実は西九州青果の青果卸事業頼み。コンサルなどの他の事業は振るわなかった。さらに、クレスト社が融資を受けていた日本振興銀行が経営破綻。クレスト社は多額の負債を抱え、11年には整理回収機構の管理下に置かれ、12年には事業継続を断念した。現在、破産手続き中。西九州青果の株式は、この間に整理回収機構に移ったが、西九州青果は「自社の株式が再び投資目的の企業の手へ渡っては困る(森下社長)」と、買い戻しを決意。クレスト社や整理回収機構との粘り強い交渉の末、ことし3月19日付で株式の買い戻しに成功した。

Q スーム

熊青西九州青果 1959年設立。取扱高は、熊本大同青果に次いで県内2位。今回の株式取得に際し、社長を理事長とする一般財団法人を設立し、会社の重頭株主として、給食の各組合からの出資申し出もあった。森下社長は「金融機関や取引先が、当社を『地元に残さなくてはならない』と支援してくれたことがありがたかった。卸売業という本業に専念し、消費者ニーズに応じた産地づくりなど地域に貢献することで、期待に応えたい」と気持ちを新たにしている。(田川里美)

経済
アングル